

特集「情報社会の基礎を築く情報システム」の編集にあたって

辻 秀 一†

情報システムは、情報社会の進展によりその重要性がますます強まっている。これにともない現実の社会環境における適合性や有用性を高めるための情報システムの実現方法に関する研究の重要性が高まっている。

一方、情報システム論文の書き方については「書きにくい」、「論文が通りにくい」といった声が聞かれており、IS研究会（情報システムと社会環境研究会）においてこの問題について議論を繰り返してきた。その成果は「情報システム論文の書き方と査読基準の提案（永田守男，情報システムと社会環境 77-4，2001.6.26）」の形で公開している。特に論文評価と関連して、要素技術の適用における新規性、情報システム環境における有効性や会員に対する有用性、研究そのものの信頼性や論文記述の信頼性などが重要であることを示している。

特集号「情報社会の基礎を築く情報システム」は、2005年3月、2006年3月の特集号に引き続き企画されたものである。本特集号では、情報システムの分析・設計・構築・運用と利用、情報化ニーズ、情報・データの管理などの理論と実際、情報システムと人間・組織・社会との相互関係、現実の情報システム開発事例、情報システム構築手法の研究だけでなく、利用者の視点にたった実証研究や人文・社会科学との学際的分野などを対象範囲とする論文を広く募ることとした。

投稿された論文は、科学・技術からビジネスや社会まで多岐にわたり、学際的な内容もかなり含まれていた。投稿論文は19件あり、うち採録された論文は6件となり採択率は31%である。予定採択率の50%より低くなった主な理由として、扱っているテーマはみな興味深いものの、「情報システム開発事例報告」にとどまっている論文が少なく、情報システム論文として具備すべき新規性や有用性が示せていないことや、新規性や有用性は有しているが、論文記述の信頼性や分かりやすさに関して不十分なものが見られたことをあげることができる。ただし、不採択論文にも大変興味深いテーマが多かったため、完成度を高めて再度投稿されることを期待している。

このように採択率が低くなったこれまでの原因を分析して論文の質を高めるための指針を整理し、これらの原因と指針をより広く理解してもらうために、編集委員メンバであり2005年特集号の編集委員長でもあった神沼靖子氏にこれらの点をまとめていただき、招待論文「情報システム論文の特質と評価」として掲載することとした。

採択された論文は、「情報システムの開発と運用」、「社会・人間系の情報システム」に分けて整理した。情報システムの開発と運用は3件あり、テーマはプロジェクトマネージャ育成支援、サーバアクセス手法と評価、オープンソースの再利用によるソフトウェア開発である。また、社会・人間系の情報システムでは、農産物のトレーサビリティ支援システム、地震災害時活動支援システム、属性認証システムがテーマである。

今回、情報システム関連の3回目の特集号を実現することができた。昨年、一昨年に引き続き情報システム論文特集号の発行を機として、情報システム論文への関心がさらに高まることを期待したい。

最後に本特集号を出版する上でご協力いただいた編集委員、タイトなスケジュールの中で丁寧にも公平に査読していただいた匿名の査読者、スケジュール管理をはじめ適切な支援をしていただいた学会担当者の方々に感謝の意を表します。

「情報社会の基礎を築く情報システム」特集編集委員会

- 編集長
辻 秀一（東海大）
- 編集委員（五十音順）
浅井達雄（長岡技科大）、阿部昭博（岩手県立大）、市川照久（静岡大）、魚田勝臣（専修大）、大場みち子（日立）、金田重郎（同志社大）、神沼靖子（埼玉大大学院非常勤）、刀川 眞（NTT データ）、富澤眞樹（前橋工科大）、樋地正浩（日立東日本）、山口高平（慶応大）、弓場敏嗣（電通大）

† 東海大学